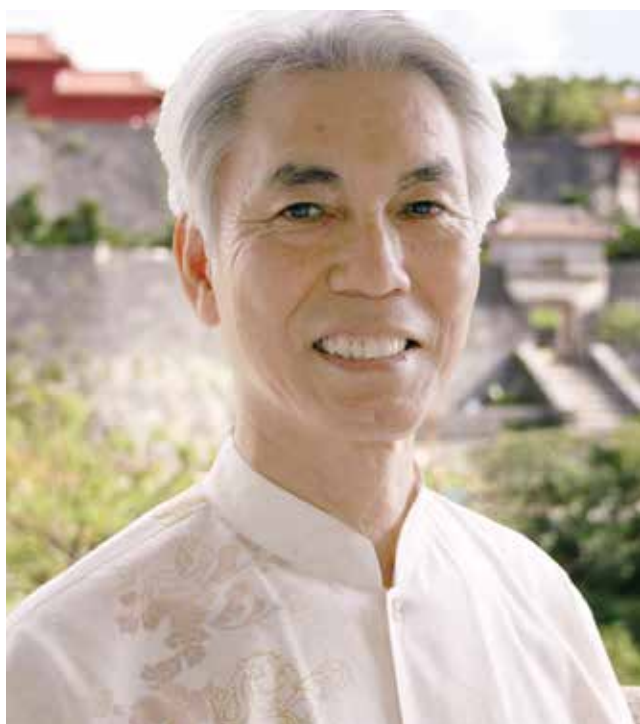




けー じょう 開 鐘



「沖縄文化の個性の美と人類普遍の美を追究する」ことを建学の理念として掲げる沖縄県立芸術大学は、来年度で開学30周年を迎えます。

世界遺産首里城に隣接する恵まれた環境の中、個人指導や少人数制によるきめ細かな個性を伸ばす教育により、学生達は各種コンクール等において毎年顕著な成績を修めています。

これまでに巣立った3,200名余りの卒業生、修了生も、本学での学びを活かし各分野で活躍しています。

本学は、地域連携を積極的に推進する意向で、昨年度は一般財団法人沖縄美ら島財団や南城市と包括的連携協定を締結しました。

来年度は音楽学部の学科再編を行い、現代沖縄音楽やアートマネジメントも学べる「沖縄文化コース」を新設し、魅力ある大学づくりに努めます。

今後とも本学は、才能豊かな学生たちの個性を伸ばす教育を堅持し沖縄の芸術文化の発展のため、邁進してまいります。

平成27年5月15日 学長 比嘉 康春

開鐘の由来

開鐘とは、琉球王国時代に三線の名器に与えられた尊称である。五開鐘・十開鐘があり国王や王朝貴族が重宝したという。その由来は、夜明けのあけむつ（午前6時）につく寺の「百八の鐘」のことを開静鐘といったことから名付けられた。その音色ははるかかなたまでよく響きわたり、聴く者を魅了し、共鳴させたという。1803年に即位した尚灝王の琉歌に「世界や暗闇かおぞむ人もをらぬ、やがて開静鐘も

ならゆらやすが」とある。外国船が沖縄に姿を見せはじめ、開国が目前にせまっているのに誰も気づく者がいないと嘆いている。卓越した感性の持ち主である。本学も開鐘のごとく沖縄の未来を切り拓き、世界に向かって飛躍していく拠点になることを願い、情報発信源たる広報に「開鐘」というタイトルを付した。

～ 目 次 ～

学長あいさつ	1	卒業・修了生 主な就職先	8
新部長あいさつ	2	国際交流	9
新任者紹介	2	留学生名簿	9
美術工芸学部／各専攻近況	4	留学生紹介	9
音楽学部／各専攻近況	5	同窓会ニュース	9
全学教育センター近況	5	退任あいさつ	10
大学院近況	6	人事往来	10
附属研究所近況	7	オープンキャンパス案内	11
附属図書・芸術資料館近況	7	学内ニュース	11
沖縄県立芸術大学芸術振興財団ニュース	7	平成27年度公開講座案内	11
助成金獲得状況	7	展覧会情報	12
受賞者状況	8	演奏会案内	12

新部局長あいさつ



学生部長
金城 厚

学生部の仕事は学生支援、つまり学生の皆さんの勉学環境を支援していくことが第一です。

かつて私自身が設立に携わった生活協同組合の店舗が維持できなかったことは痛恨の極みですが、まずは昨年実施した「学生満足度調査」の結果データをもとに、印刷物をはじめ大学の活動すべてにおいて「わかりやすい説明」に心がけていきたいと思っています。全学教育で

は前記アンケートに寄せられた意見を今年の改正で大幅に実現できたと思います。

今後とも、学生の皆さんの意見表明を期待しています。



附属研究所長
久万田 晋

本年度4月より、附属研究所所長となりました。附属研究所では一般県民に向けた公開講座・文化講座の開催に加え、これまで7回にわたり県内離島地域で実施してきた移動大学を本年度も企画しています。また平成28年度に本学は開学30周年を迎え、移動大学を本県の歴史的繋がりが深いハワイで開催してはどうかとの案を現在検討しています。いずれの事業についても、美術工芸学部、音楽学部、大学

院と緊密な連携を取りながら、本学において地域と大学を繋ぐ附属研究所としての特色を積極的に打ち出してゆきたいと考えています。



附属図書・芸術資料館長
波尋野 泉

平成18年度の大学自己評価の後、25年度においても当館の専任学芸員配置の必要性が重ねて指摘され、芸術資料館における学芸業務の充実、強化が求められました。長年のこの懸案を解消すべく、学内の理解を得て、本年度より専任教員兼学芸員を中心とした「学芸室」を設置することとなりました。これを機に、中長期的展望に立って収蔵資料の整理、情報化とその公開が促進され、大学資料館として学術

的に高度な研究と企画や、他の大学ミュージアムとの交流事業等が組織的に展開される運営を目指します。

新任者紹介



染織・教授
真栄城 興茂

本年度より工芸専攻織物の教授として着任しました。私は織の仕事に入り、37年になります。本学では、大学院生に対して非常勤講師での指導の経験はありますが、この度、教員として学生たちが作品と向かい合い、感性をみがく現場に参加させて頂けることに感謝しています。いままでも私なりに培ってきたことを学生たちに伝えながら、

共に、前に進んでいきたいと思っています。宜しくお願い致します。



全学・教授
森 達也

本年4月に全学教育センターの博物館学課程の教授として着任しました。博物館学芸員資格取得に関する科目を担当するとともに、附属図書・芸術資料館の資料館部門の運営にも携わります。私の専門分野は陶磁史研究で、特に中国陶磁の生産や流通に関して、中国をはじめ世界各地を調査しながら研究を続けてきました。沖縄は琉球王朝の時代にアジアの陶磁流通の拠点として極めて重要な位置を占めており、陶磁研究者にとって夢の場所と言っても過言ではありません。本学に採用さ

れ、この地に赴任することができて大変嬉しく思っております。美術館に学芸員として長く務めた経験を生かして、博物館学課程の科目を資格取得のためだけの授業に留めず、学生が幅広い知的好奇心を持つように導くことができる講義になるように努力していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。



琉球芸能・教授
比嘉 聰

本年度4月より音楽学部琉球芸能専攻へ着任しました。琉球古典音楽及び副科実技(太鼓)を担当いたします。焼け野が原から琉球大学が創立され、首里城の復元、県立芸術大学の建立と大きく変遷してきました。高校時より首里へ通い初め数十年の月日が流れました。私はシュインチュ(首里出身)ではありませんが、この通い慣れた首里の本学にて学生を教えることは感慨深く光栄であります。学生とのコ

ミュニケーションを大事に、和やかで楽しい学園生活が送れるようサポート出来ればと思います。専門分野の技芸の向上をはかると同時に、それに挑む心構え、精神、礼節等を説ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



琉球芸能・教授
高嶺 久枝

本年度より琉球芸能専攻教授に着任致しました。当大学に25年前非常勤講師として務めさせて頂き、再度務めさせて頂けますことを光栄に存じます。琉球舞踊に魅せられ舞い続け、舞う行為は今では生きる証となっています。その間、琉球大学理工学部化学科にて物質の結晶化研究をした経験を生かし、舞踊にも応用すべく、日々の稽古にて舞の結晶化を心がけてきました。又、知る喜びから、「琉球芸能の源流

を探る」を自己課題化して生涯学習を心がけてきました。当大学では、各分野の専門の先生方の心と技をも学びながら更なる研究を心がけ、学生と共に、世界に誇れるワシタ琉球の誇りをグローバルな視点から県内外、世界に発信すべく日々勤めたいと思います。



全学・教授
松田 盛雄

本年度4月から全学教育センターに着任しました。主に教職課程の中で教育心理学や学校カウンセリング等の教科を担当します。前職は、法務省矯正局管下の少年鑑別所や刑務所等で、非行・犯罪に関する心理臨床領域で心理分析や矯正教育等を行っていました。社会規範からの逸脱者を社会復帰させる手助けをしてきましたが、今度

は心理学の紹介と同時に、本学学生の学校適応や教育実習の援助を行うことになります。本学が築き上げて来た実績を引き継ぎ更に発展させるよう教育研究活動に励みたいと思います。

新任者紹介



芸術学・准教授
金 恵信

今年度4月より美術工芸学部芸術学専攻に着任いたしました。東洋美術史及びアジア近現代美術史関連の授業を担当します。

生まれ育ち西洋とアジアの近現代美術史の勉強を始め大学院まで過ごしたソウル、留学し博士学位論文を書き仕事をしてきた東京に続き、沖縄の那覇が人生の新たな拠点に加わったことが嬉しいです。

学生たちが美術をととして沖縄から東アジアを考える視座が持てるよう、教育と研究を行っています。



器楽・准教授
倉橋 健

今年度4月より音楽学部器楽専攻に着任いたしました。当専攻では専門実技(トランペット)・室内楽・オーケストラ・吹奏楽等に関する科目を担当いたします。また、演奏活動とともに音楽教育における地域貢献と人材育成に関する研究も行っております。学生やこれから音楽を志す若い世代、地域の音楽愛好家、教育関係者の方々との交流

をとても楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



全学・准教授
張本 文昭

健康・運動科目の担当として着任しました。芸大生の学びに対して「体育でどういう貢献ができるのか…」そのことを赴任前からずっと考えています。

「教育とは、習ったこと全てを忘れた後に残るもの」という言葉があります。学生たちには、僕のことも授業で教えたことも全て忘れて

もらってもよいので、それでも『何か』芸術に通じたり、人生に通じたりすることを感じ取ってもらえたらと願います。



全学・准教授
藤田 喜久

本年4月より全学教育センターの准教授に着任いたしました。私は、学生時代から沖縄のサンゴ礁に暮らす生物の多様性を理解する研究を行って来ました。本学では主に自然科学系の講義を担当することになりますが、芸術と科学との関係性について様々な視点から情報を提供し、学生達の芸術活動に少しでも貢献できるよう努力し

たいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。



器楽・講師
屋比久理夏

本年度4月に、音楽学部器楽専攻の講師に着任致しました。専門は打楽器です。

私は、本学の出身であり、大学から大学院までの6年間を本学で過ごしました。この度、教員としてまたこの首里の地へ戻り、後進の指導という大きな仕事をさせて頂けることは、とても感慨深く、またそ

の責任の重さに身の引き締まる思いです。個々の学生としっかり向き合い、それぞれが目指す人生へ全力で導いていくと共に、私自身も、常に志高く教育研究活動に励んで参ります。



絵画・助教
屋宜久美子

今年度から絵画専攻の助教に着任いたしました。私の専門は抽象絵画とインスタレーション表現です。またアートワークショップも行っており、美術制作の人間形成的な働きについて研究しています。

以前に非常勤講師として本学を訪れた際に、真摯に表現と向き合う学生達の熱を強く感じました。これからは学生達を全力でサポー

トし、教育・研究に邁進したいと考えております。



彫刻・助教
竹内 紋子

本年度より彫刻専攻の助教に着任いたしました。私は大学で助手を3年間勤めた後、木彫による制作活動、作品発表、初等教育の非常勤講師をさせていただいておりました。本学で再び専門教育に携わることができ大変光栄に思います。私自身は本学出身ではございませんが縁あって勤めさせていただくことになりましたので、沖縄の

文化を学びながら自身を内省し学生のキャンパスライフがスムーズに運ぶよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



器楽・助教
稲嶺 哲也

私はこの3月まで器楽専攻の助手として3年間勤めさせて頂き、今年度4月より器楽専攻の助教に着任いたしました。器楽学科の業務に加え、授業を受け持つこととなりまして新たな気持ちと責任の重さを感じております。

学生が将来の目標や希望を持って学べるよう、教員としてより良

い環境を作り、指導していきたいと考えております。
3年間どうぞ宜しくお願い致します。

美術工芸学部 / 各専攻近況

絵画専攻

2013年12月に開催された専攻主催の国際交流プロジェクト「版と言葉展」が2014年9月に九州産業大学美術館(福岡)で、10月にタイ国チェンマイ大学、さらに11月にはサラエボ大学ファインアートアカデミー(ボスニアヘルツェゴビナ)で開催されました。各大学では丁寧なオープニングが行われ盛況のうちに終えました。各校へ送られた全作品の入った各エディションボックス(全部で6部制作)が、当地での展覧会や版画教育の授業に活用され、複製が可能な版画表現のメリットが相互コミュニケーションとして最大限に活かされたと思います。本年度は6月3日から、愛知県立芸術大学が名古屋

市栄のサテライトギャラリーで行う予定です。各大学とも版画教育に熱心で、特に九州産業大学では「版と言葉展」の前に九州・沖縄版画プロジェクトVol.1 九州・沖縄作家展があり、絵画専攻からは3名の油画教員と学部学生、研究生の2名が出品しました。

「版と言葉展」サラエボ大学ファインアートアカデミー

彫刻専攻

4月27日に北中城村との芸術交流事業10周年記念として、10年間の実績を振り返り、今後のアートを活かした新たな街づくりを目的に「アートが輝く魅力あるまちづくり」シンポジウムが開催されました。基調講演、パネリストとして上條文穂教授が登壇しました。8月27日～9月5日の期間、4年生を中心に企画運営された「1517.806km沖縄県立芸術大学×女子美術大学」が女子美術大学(110周年記念ホール)で開催されました。この展覧会は東京と沖縄を交互に開催し、今回で6回目になります。

11月には、今年で10年になる北中城村 芸術の里「彫刻カジマヤー計画」の作品設置を行ないました。同時期に大城区にてテラコッタワークショップ、石積みワークショップを開催し、子ども会や老人会の皆さんが多数参加してくれました。



カジマヤー10年 シンポジウム

芸術学専攻

本学開学当初より教鞭を執ってこられた浅野春男教授が3月31日をもって退任されました。3月7日の退任記念最終講義には、卒業生や在学生、教職員、地域の方々など多くの方にご来聴いただきました。講義では長年研究されてきたセザンヌについてお話されました。また、姉妹校であるイタリア、ミラノ・ビコッカ大学より、アンニカ・フェッラーリさんとラウラ・グラツィアーノさんの2名を受け入れました。

学生活動としては、比嘉春香さん(2年)が展覧会「点在するおと」展(2014年6月12日～17日、於本学附属図書・芸術資料館)、寺田健人さん(2年)が「Dig ↓ Dig ↓ Personal ↓」展(2014年6月21日～26日、於本学附属図書・芸術資料館)を企画するなど、積極的に活動しました。さらに専攻内に留まらずに学生・卒業生の有志によって「少女マンガの表象研究会」が結成され、3月21日に『美少女戦士セーラームーン』に関する研究報告会が開かれました。

デザイン専攻

今年のデザイン専攻2年生は、「ふるさとの特産品開発」の授業で、伊平屋村を取り上げました。計4回の伊平屋島訪問など実地調査を進めながら5グループに分かれ、産地の農林漁業の特産物や地形を利用した特産品の提案をしました。

また、毎年恒例の沖縄ファミリーマート主催、県内大学対抗商品開発(通称ガクP)に参加、専攻2年生の有志4名は県産もずくを使用したヘルシー食品、「ちゅるーもずくあんむすび」を提案し、ベストコンセプト賞を受賞しました。

最後に本専攻では海外からの留学生を積極的に受け入れていま

すが、今年は姉妹校のドイツ・ミュンヘン美術大学(ヤスミン・エグバリー)、同じくプレーメン芸術大学(ニーナ・メリッサ・ラティエ)、タイ・チェンマイ大学(パヌマス・タヴェーポル)からそれぞれ1名ずつの交換留学生と、ブラジルから県費の留学生(ビートル・ヒガジョ)が本専攻でデザインを学びました。新1年生には韓国からの留学生(ジュ・ハンセム)も1名おり、専攻史上最も留学生の多い年となりました。



ガクP商品「ちゅるーもずくあんむすび」

工芸専攻

工芸専攻織分野ルバース吟子教授の退任記念展が2015年1月9日(金)～1月18日(日)の10日間、本学附属図書・芸術資料館2階展示室で開催されました。開学当初から30年近く本学の教育に携わってきたルバース先生の研究活動の集大成となるこの展覧会は、工芸を学ぶ学生へ多大な刺激を与えてくれました。工芸専攻織分野と音楽学部との初のコラボレーションによる「織の響」コンサートが沖縄科学技術大学院大学(OIST)講堂にて平成27年2月22日に開催さ

れました。織と音楽の創造・制作過程との共通性に着目し、当芸大からできる企画となり、織作品展示空間の中で音楽の演奏会が開催され好評を博しました。



共通造形センター近況

共通造形センターは、様々な美術関連工房の運営の他に、美術工芸学部1年生の「造形基礎」をはじめ、自由科目などの授業や、卒業・修了作品展の運営など、各専攻分野の境界を越え、横断する活動を行っております。

今年も昨年同様、「夏休み高校生サマースクール」をはじめ、「第38回沖縄の産業まつり」へのブース参加、「第26回卒業・修了作品展」の運営を行ないました。

また、来年度から「卒業・修了作品展」を本学内ではなく、県立博物館・美術館で開催することになっており、その準備を行なっているところです。



夏休み高校生サマースクールの様子

音楽学部 / 各専攻近況

声楽専攻

声楽専攻では平成26年度、学部生6名と大学院生3名の合計9名が巣立っていきました。今年度の大きなイベントは、10月の大学定期公演で声楽専攻が総力を挙げて上演した、コンサート形式のモーツァルト作曲オペラ『フィガロの結婚』です。指揮にはドイツ在住の村上寿昭氏を迎え、学生、非常勤講師、専任教員が一致団結して取り組みました。オペラの序曲はピアノコースの学生が連弾。その後は

佐久間龍也教授がピアノを、近藤広志教育補助嘱託員がチェンバロを担当し、オーケストラ上演に負けない迫力ある舞台上に仕上がりました。



器楽専攻

管打楽コースでは6月6日～9日の日程で、【アーティスト・イン・レジデンス】として世界的ティンパニストである元ミラノ・スカラ座首席奏者のジョナサン・スカリー氏を招聘し、地元中高生の打楽器アンサンブルと県営打楽器学生生の公開レッスンや打楽器アンサンブルコンサートを開催し、中高生との交流や著名な演奏家の音に直接ふれることが出来て大変有意義な機会となりました。第20回オーケストラ定期演奏会は8月5日奏楽堂ホールで開催し、沼尻竜

典氏の指揮のもとラヴェルピアノ協奏曲(ソリストはオーディションで選出された南部璃子4年)、ブラームス交響曲第3番他を熱演し好評を得ました。【演奏解釈論】として11月8日～9日に、バロック音楽の第1人者として名高い小倉貴久子氏を招聘し、奏楽堂ホールでチェンバロとピアノによる演奏会と講義「バロック音楽～古典派音楽の語法」が行われました。楽器の変遷、演奏習慣の違い、装飾音の演奏法などを明快に解説して頂きました。

音楽学専攻

音楽学専攻では、平成26年度、新たな専任教員として、塚田花恵助教と花城洋子教授が着任しました。塚田助教の専門は西洋音楽史で、19世紀フランスを中心とした芸術音楽観を研究しています。花城教授の専門は民族舞踊学で、主に琉球舞踊を対象とした動作学的な分析研究を行っています。

音楽学コースでは、琉球古典音楽における昔節の形式、ショパンの出版楽譜にみられるアーティキュレーションの変遷、日本の民俗芸能と性的要素などをテーマとする卒業論文が提出されました。ま

た、今年度も、芸術学専攻と合同で卒論発表会を行い、活発な議論が交わされました。作曲コースでは、2月7日(土)奏楽堂ホールにおける試演会で学部生、研究生の提出作品「フルート・ソナタ」×「トランペット・ソナタ」×「フルート、ピアノのための『ヴェール』」が初演されました。作曲者、熱意ある器楽専攻在学生の演奏にも大きな拍手が贈られました。また初めての試みとして、6月28日には美術デザイン専攻卒業生玉那覇愛さんの舞台美術と釜村僚一君との劇音楽による共同作品『四ひきの音楽師』が奏楽堂ホールで演奏されました。

琉球芸能専攻

第25回琉球芸能定期公演を10月18日国立劇場おきなわ(大劇場)にて開催致しました。25年という節目を記念して、教員・学生の総出演に加え、多くの卒業生が県内外から多数参加し華を添えて頂き、総勢130名の出演者でこれまでの教育成果を発表する機会となりました。またこの記念の年に、7代目の学長が琉球芸能専攻から誕生した事は、大学関係者のみならず、沖縄芸能関係者全般にとっても大きな喜びとなりました。また、高大連携の取組みでは琉球芸能ソロコンテストに続き、県内6カ所の高等学校で、三線・琉球舞踊講座を行い、郷土の文化に触れ親しむ機会となりました。その他、県内両

新聞社によるコンクールでは、各部門で多くの学生が受賞しており、学外においては、出前コンサートや与論有志公演の他、韓国ウルサン大学での交流公演、ワシントンDC沖縄県ソフトパワー発信事業芸能団参加など、積極的に活動を行っています。今年度も伝統文化の継承と発展をめざし、地域に根差した教育研究、そして社会貢献に向けて教員学生一丸となって取り組んでいきます。



全学教育センター近況／教養教育・資格課程教育

平成18年度の本学一般教育改革プロジェクトに始まる教養教育改革の流れの中で、平成23年度に全学教育センターが設置され、この間に出された中教審の「学士課程答申」にも対応すべく、当センターでは全学教育カリキュラム改革を検討してきました。そして、本年度よりそのカリキュラムが大きく見直されます。旧総合教育等科目は、新しく「全学教育科目」として「リテラシー科目」「一般教養科目」「芸術教養科目」「沖縄の文化に関する科目」「健康・運動科目」の5つに再区分され、履修方法も今

教職課程

新里健先生が、昨年度退官されました。先生の強みは、認知心理学の知を学校現場で活用できる実践的な知へと再構築することにあります。そのために先生は学校現場で200回以上授業を行い、教師、生徒たちの声に耳を傾け、現場支援のあり方を模索していました。そこで培われた支援的な眼差しの下で、2001年の着任以降多くの学生が巣立っていきま

博物館学課程

平成26年度は21名の受講生が学芸員資格を取得しました。音楽学部の学生も資格取得できるようになって5年。受講生が増え、幅広い専攻の学生が、資格取得に取り組んでいます。また博物館実習では、県内外10館に24名の実習生を送り、学芸員業務の実習を経験しました。実習で現場へ出ると、博物館が扱うのは資料つまり「物」だけではなく、来館者

まで以上に学生個々の自律的な学習計画によって取り組めるようになっていきます。

当センターは、全学横断的組織として各分野の教員による緊密な連携のもと、今後も学生のリテラシーと論理的思考力の育成、幅広い総合的な学びの保証を主眼に、専門教育との一層の有機的関連性に配慮した体系的なカリキュラムの研究開発と内容の充実を図ってまいります。

した。先生が蒔いた種を、彼らが学校現場、社会で個性的に開花させることを願っております。また、今年度からは松田盛雄先生が教育心理学系の授業を担当されます。矯正教育の現場経験に根ざした少年の非行や犯罪についての洞察が、本学教職課程に新たな知見をもたらしてくれることでしょう。

や地域の人々など「人」との繋がりがいかに大切かを学ぶことになりま。頭の転換を余儀なくされ、また博物館を取り巻く社会を勉強し、実習生たちは一回り成長して帰って来ました。平成27年度には博物館学課程の専任教員を迎え、カリキュラムや授業内容がさらに充実していくと思われます。

大学院近況／修士課程

生活造形専攻

染織専修2年生の宮城愛美さん、国吉春香さんがギャラリーブルミエの第2回公募展に入選しました。宮城愛美さんと陶磁器専修の小浜由子さん等で企画運営したグループ展KOOOZA-BLUE~ではそれぞれの研究課題を取り込んだブルーを表現し、グループ展ならではの空間を提案し好評でした。又、第23回全国染織公募展におい

て宮城愛美さんが入選、第69回新匠工芸会展の公募で染織専修1年生の石倉めぐみさんが伊佐利彦賞(40歳未満の若手作家に与えられる)を受賞、幸喜明子さんが第67回沖縄展に入選など今年も活発に作品活動をおこないました。

環境造形専攻

2014年8月10日に国際交流基金日本文化センターのサポートを得て、タイ国チェンマイ大学にて「日・タイ アーティストスチューデント交流展」が開催され本学から教員3名、環境造形専攻学生3名、芸術文化科学研究科学生1名が参加しました。オープニングに先立ちチェンマイ3大学、愛知芸術大学、東京造形大学、本学学生の12名によるアートディスカッションが行われ、彫刻専修の児玉愛さんと、芸術文化科学研究科の平良優希さんが県立芸術大学の紹介を行い、絵画専修の安里慎君と彫刻専修の岡部賢亮君がトークに参加しました。タイ学生側は職業観として美術教員を選ぶ学生が多く、日本の学生の技術力を指摘したのに対し、日本の学生からは宗教観が反映されているタイの学生作品に質問が出ました。後日、チェンマイの名所を見学し、帰国前に学生と教員が、タイ国日本総領事館に招待され厚い歓待を受けました。

デザイン専修では、ドイツのプレーメン国立芸術大学に2名の学生が、姉妹校留学生として推薦されました。松嶋玲奈さんは、「視覚的要素がコミュニケーションに与える影響について」を研究テーマとして1年間の留学。末吉由佳梨さんは、「シルクスクリーン印刷技法を用いた模様表現の研究」として半年間の留学し、その成果を得てお互いの研究分野をさらに探求しています。



アートディスカッション学生・教員記念写真(チェンマイ大学)

比較芸術学専攻

比較芸術学専攻では、2名の修了生を送り出しました。修士論文の題目は「マイヨリカにみるルネサンスの女性美について―『愛の陶器』に描かれる女性肖像を中心に―」(加藤志帆)「画家・山城見信研究―作品の変遷をたどって―」(大城さやか)です。大城さんの論文は、本学でも教鞭を執った作家山城見信についての初めての学術的研究です。加藤志帆さんの論文は、イタリアの錫釉陶器「マイヨリカ」に描かれた女性の肖像画に関する研究がまとめられており、北

中城村長賞を受賞しました。また加藤さんは本年度戸部真紀財団の奨学金を授与されました。

比較芸術学専攻では、平成28年度より入学試験の方法を9月試験(9月5、6日)と2月試験(2月6日)に変更します。



舞台芸術専攻

昨年度11月に初の舞台芸術専攻学内演奏会が開催されました。1月に開催予定の修士演奏の内容に添ったプログラム構成で緊張感を感じさせる舞台発表となりました。本番の修士演奏では、舞台芸術専攻古典音楽専修2名(歌三線:大城建太郎、和田信一) 舞踊組踊専修3名(舞踊:玉置麻侑、山里静香、組踊:新城唯子)計5名が2年間の研究成果を発表しました。副論文では、工工四理論に基づく茶屋節の演奏法研究、工工四図形譜の考案などここ数年、安富祖流の演奏

理論の研究発表も芸大ならではのものとなっています。舞踊2名は、琉球舞踊と空手技法の関連性を検証しました。琉球古典舞踊と動作研究についての資料が少ない八重山舞踊の体づかいの比較分析。組踊1名は、復曲作品「貞孝婦人」を取り上げ、原本翻字台本、整理台本、現代語訳台本の研究を重ね、修士演奏では、自身で起こした台本を使用し上演しました。助演者(卒業生、在学生)も一体となって支えてくれた公演となりました。

演奏芸術専攻

演奏芸術専攻では、1年生による「大学院生によるコンチェルト」平成26年11月16日(日)に、田港光(テノール)、中城愛里(ソプラノ)、濱崎いつみ(ソプラノ)、嘉数まな美(ソプラノ)、三縄愛子(ピアノ)、赤嶺有衣(クラリネット)の独奏を奏楽堂において本学教授陣の指揮によるオーケストラの共演で行われ好評を博しました。

大学院の集大成である修士演奏はピアノ専修:平成27年1月31日(土)又吉真理子(ピアノ)ショスタコヴィチ:24の前奏曲とフーガ作品87より他。管弦打楽専修:平成27年2月2日(月)山入端優奈

(ホルン)モーツァルト:ホルン協奏曲KV.495他。亀島ちさと(トロンボーン)H.トマジ:トロンボーン協奏曲他。平成27年2月5日(木)北園あかね(ソプラノ)G.ドニゼッティ:オペラ《ドン・パスクワーレ》より抜粋。永井友恵(ソプラノ)R.シューマン:《女の愛と生涯》作品42他。嘉数まな美(ソプラノ)S.バーバー:《隠匿者の歌》作品29より抜粋他。以上6名がそれぞれ上記の作品を通じて素晴らしい内容の演奏を披露しました。

音楽学専攻

音楽学専修では、2名の修了生を送り出しました。修士論文の題目は「伎楽曲「師子」の研究」(阿部華鈴)と「沖縄の歌における機織りと女性」(川崎麻愛)です。前者は、古楽譜の分析による音楽学的な観点から、伎楽の発祥地である「呉」が朝鮮半島にある可能性を指摘しました。後者は、沖縄の民俗芸能や古典芸能における機織りの歌と、おなり神信仰を土台とした女性から男性への思いとの関係性を指摘

しました。音楽学研究誌『ムーサ』には、又吉恭平(1年次)の「浦添市仲西における獅子舞の伝承について」と、金城教授の指導による真栄城由依(舞台芸術専攻1年次)の「琉球古典舞踊「かせかけ」の楽曲構成について」が掲載されました。また、今年度も、比較芸術学専攻と合同で修論発表会を行い、活発な議論が交わされました。

博士課程

平成26年度、芸術文化学研究科では4名の学生が博士論文を提出し、博士(芸術学)の学位を取得しました。各論文は、松本(古謝)麻耶子「モザンビークの舞踊劇パイラードの民族音楽学的研究—〈アート〉の創出とアイデンティティ」、遠藤美奈「ハワイの沖縄系移民による芸能活動と沖縄」、鈴木良枝「パリのゴン・クビヤールにおけるガヤの意味—ガムラン音楽における演奏表現—」、鈴木耕太「組踊

台本の基礎的研究」で、それぞれが独創的かつ斯界に貢献できる学術的研究を行いました。

また、芸術表現研究領域(実技系博士)の学生による研究発表会、研究演奏会／展覧会が開催され、演奏・作品制作とそれを理論的に支える研究の成果が発表されました。今後も博士課程の学生による多彩な活躍にご期待ください。

附属研究所近況

附属研究所では、文化講座・公開講座、両学部協力のもとでの移動大学を開講・開設しています。H26年度の文化講座は4講座、公開講座は1講座で、延べ2,361名の方々が参加しました。また、第7回目を数える移動大学は、2014年12月23・24日の両日、宮古島市伊良部島で開催されました。伊良部島の児童生徒および多くの市民が参加しました。伊良部大橋の開通で宮古島と結ばれた伊良部島を祝福するに相応しい催しとなったことと思います。今回の移動大学では、音楽、美術工芸などあわせて14教室(29講座)と空手道演武、洋楽コンサート、琉球芸能公演を開催し、延べ940名の方々に楽しんでもいただきました。また、附属研究所客員教授の我部政男先生による「我部政

男 特別講座」について2回の講演も行いました。これらとは別に、鎌倉芳太郎資料の整理にも取り組みました。その成果は『鎌倉芳太郎資料集 紅型見本・裂』(伝統工芸部門 B5判 約500頁)、『鎌倉芳太郎資料集(ノート篇Ⅲ)歴史』(芸術文化学部門 B5判 約850ページ)としてまとめられています。沖縄の工芸研究および歴史・文化研究の貴重な資料が利用しやすい形となりました。ご活用いただきたいと思います。



附属図書・芸術資料館近況

(図書館)

平成26年度末で、図書が和書54,473冊、洋書14,608冊、合計69,081冊、雑誌が和雑誌1,456種、洋雑誌101種、合計1,557種、楽譜が7,725冊、視聴覚資料(DVD、CD等)が7,374点の資料を所蔵しています。平成26年度の利用実績としては、開館日数210日、利用者数20,085人、貸出数6,960冊となっています。

(芸術資料館)

平成26年度末で、芸術資料175件(8,240点)、学生買上作品143件(412点)が収蔵されており、分野も「絵画」、「彫刻」、「陶芸」、「染織」、「漆器」、「楽器」など多岐にわたっています。平成26年度の利用実績としては、展示会開催回数41回、展示室利用日数252日(資料閲覧、博物館講義含む)、展示会観覧者数16,536人となっています。

(公財) 沖縄県立芸術大学芸術振興財団ニュース

本財団は、沖縄県立芸術大学及び沖縄県内における芸術文化の発展に寄与するため、平成26年度は芸術文化に関する事業に対し次のとおり助成を行いました。

沖縄県立芸術大学の教育・研究及び学生の活動に対する助成として、退任記念最終講義、高校生のサマースクール、五芸祭への参加、学生主体の演奏会、作品展及び研究等合計16事業に対して助成を行いました。地域社会における芸術分活動に対する助成として、ワー

クショップ&シンポジウム、沖縄科学技術大学院大学琉球芸能公演、工芸家交流展の合計3事業に対して助成を行いました。

奨学金については、沖縄県立芸術大学学生及び大学院生13名へ奨学金を給与しました。また、今年度は音楽学部創立25周年記念事業への活動資金についても助成しております。本財団は、平成27年度においても、芸大の種々の活動を助成するため助成事業案件を募集しています。多くの募集があるよう期待しています。

助成金獲得状況

〈科学研究費(科研費助成金)〉

土屋 誠一	戦後沖縄における美術に関する環境整備に向けた文献資料データベースの構築
近藤 春恵	琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力の養成方法
金城 厚	民謡現地録音資料データベース化の方法の研究—沖縄民謡を中心に—
久万田 晋	南西諸島の民謡旋律の系統に関する比較分析研究
小西 潤子	パラオにおける日本語歌謡の収集と分析—民族音楽学的・言語学的観点から—
三島 わかな	戦前の沖縄本島・八重山諸島・台湾のラジオ番組における洋楽受容と郷土意識の形成
小西 潤子	南洋群島における沖縄の人々による音楽芸能の展開と現地住民との交流の実態
高瀬 澄子	日本の律管

〈沖縄県立芸術大学教育研究支援資金〉

近藤 春恵	琉球翻案脚本による音楽劇作品の上演
片桐 仁美	地域に根ざしたオペラ公演
高良 則子	英語多読の全学展開に関する実践研究
土屋 誠一	堀浩哉オーラル・ヒストリー
島袋 君子	中学校における「郷土の踊り」の教材化の試み
小沢 麻由子	音楽教育における高大接続に関する基礎研究
崎濱 秀昌	沖縄の素材を活用した衣服の実用化
山内昌也(琉)	琉球古典芸能の新しい表現と鑑賞法の開発

〈公益信託 宇流麻学術研究助成金〉

山内昌也(琉)	与論島の学校現場との連携教育推進事業の実践的研究(琉球芸能)
---------	--------------------------------

平成 26 年度 受賞者状況

絵画専攻

- 齋悠紀(卒業生)VOCA展2015【選出】
- 本村佳奈子(卒業生)AOMORI PRINTトリエンナーレ2014【入選】
- 富路弓佳(卒業生)第41回春季創画展、第14回福知山市 佐藤清美術展【入選】
- 平良優季(博士課程)第41回春季創画展【入選】
- 安里慎(大学院2年)トキョウゲージード 2015【入選】
- 但馬真琴(大学院1年)第41回春季創画展【入選】
- 玉那覇真希(学部4年)第35期 国際瀧富士美術賞【奨学生】
- 玉城綾乃(学部4年)沖縄県立芸術大学卒業・修了展【北中城村文化協会賞】

比較芸術学専攻

- 加藤志帆(大学院2年)第25回沖縄県立芸術大学卒業・修了作品展
修士論文 マイヨリカにみるルネサンスの女性美について「愛の陶器」に描かれる女性肖像を中心に【北中城村長賞】

彫刻専攻

- 長尾恵那(卒業生)第17回岡本太郎現代芸術賞【入選】
- 早川信志(卒業生)第3回アートイマジン芸術小品展【優秀賞】
- 吉田俊景(卒業生)第67回「沖展」【うるま市長賞】
- 津波夏希(卒業生)第67回「沖展」【浦添市長賞】

声楽専攻

- 糸数知(卒業生) 第15回 大阪国際音楽コンクール Age-G オペラコース【第2位受賞】
- 伊良波良真(卒業生) 第6回 東京国際コンクール 新進声楽部門【第1位・東京新聞賞】
- 金城理沙子(3年次在学学生) 第20回 おきてんシュガーホール 新人演奏会オーディション【入賞】

琉球芸能・舞台芸術

琉球新報琉球古典芸能コンクール

- 仲宗根杏樹(1年) 舞踊【優秀】
- 仲宗根杏樹(1年) 箏【新人】
- 羽地奏絵(1年) 三線【新人】
- 佐久本純(1年) 三線【優秀】
- 伊志嶺梓(3年) 舞踊【最高】
- 大湾美香(3年) 舞踊【最高】
- 城間亜衣梨(3年) 箏【最高】
- 嵩本理恵(3年) 八重山三線【新人】
- 仲村光集(4年) 三線【優秀】
- 玉城知世(4年) 舞踊【最高】
- 島尻紀希(4年) 舞踊【最高】
- 喜納彩華(4年) 胡弓【最高】
- 和田信一(大学院2年) 三線【最高】
- 大城建太郎(大学院2年) 三線【最高】

沖縄タイムス伝統芸能選考会

- 三浦聖矢(1年) 三線【優秀】
- 垣花斉志(2年) 舞踊【最高】
- 窪田めぐみ(3年) 箏【新人】
- 親川遥(4年) 三線【最高】
- 亀井美音(4年) 笛【新人】
- 亀井美音(4年) 太鼓【新人】
- 嘉数幸雅(4年) 太鼓【優秀】
- 山田和孝(大学院1年) 三線【優秀】

工芸専攻

染織

- 石倉めぐみ(大学院1年) 第69回 新匠工芸会展の公募【伊砂利彦賞】
- 幸喜明子(大学院1年) 第67回 沖展【入選】
- 宮城愛美(大学院2年) 第69回 新匠工芸会展の公募【入選】
- 第23回 全国染織作品展【入選】
- 第69回 新匠工芸会展の公募【佳作賞】
- 第69回 新匠工芸会展の公募【入選】
- 2014京展【入選】
- 第67回 沖展【沖展賞】
- 第67回 沖展【奨励賞】
- 第69回 新匠工芸会展の公募【新匠賞】
- 2014京展【入選】
- 第1回 藝文京展【入選】
- 第67回 沖展【沖展賞】

- 田里博(教員)

デザイン専攻

- 奥濱 藍(4年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【最優秀賞】
- 新竹細工デザインコンペ【優秀賞】
- 新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 友利悠太郎(4年) 新竹細工デザインコンペ【優秀賞】
- 當真 久美子(4年)新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 賀数祥子、喜屋武沙枝、長浜翼輝(3年) 新竹細工デザインコンペ(グループ)【最優秀賞】
- 與那嶺 莉風(3年) げんべい島ざうりデザインコンテスト【準グランプリ・商品化】
- 東 みづき(3年)新竹細工デザインコンペ【優秀賞】
- 喜屋武 沙枝(3年)新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- げんべい島ざうりデザインコンテスト【準グランプリ・商品化】
- 賀数祥子(3年)新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 長浜翼輝(3年)新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 高山草風(3年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【優秀賞】
- 新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 福地明乃(3年)沖縄デジタル映像祭2014【最優秀賞】
- 第4回&イラストコンテスト【優秀賞】
- 本村 美紅(3年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【優秀賞】
- 清水知佳、白石望、津波古廣香、前川仁美、森田綾香(2年) ガクP2012沖縄リーグ(グループ)【ベストコンセプト賞】
- 仲里 晴香(2年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【優秀賞】
- 白石望(2年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【優秀賞】
- 新垣奈々子、親里咲紀(2年) 新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- 喜納夕里加(2年)第18回コミックイラストコンテスト【入選】
- 波平敏弥(2年)新竹細工デザインコンペ【優良賞】
- OTSサービス経営研究所ロゴデザイン【採用】
- 新垣玲美、長濱萌葉、高江洲萌、石川はづき、根間すみれ(1年) 沖縄デジタル映像祭2014(グループ)【企業賞】
- 根間すみれ(1年) イオン琉球創立40周年記念コミュニケーションマークデザイン【優秀賞】
- 石川めい(大学院1年)oasia沖縄かりゆしウエアテキスタイルデザインコンペ【銅賞】
- 松嶋玲奈(大学院1年) げんべい島ざうりデザインコンテスト【グランプリ・商品化】
- 第67回沖展 版画部門【入選】

西銘順治賞

美術工芸学部：玉那覇 真希、小林 雅英、廣川 友紀子、奥濱 藍、與那嶺 利菜

音楽学部：黒住 かほる、宮里 朝一郎、玉城 知世

山本正男賞

造形芸術研究科：宮城 愛美、加藤 志帆

音楽芸術研究科：玉置 麻侑

芸術文化学研究科：鈴木 耕太

平成27年3月卒業・修了生 主な就職先

【美術工芸学部】

(株)宣伝	(公財)沖縄こどもの国	吉田歯科医院	(株)ギャザー	(株)エイティング沖縄
にじのいえ	城間紅型工房	中学校非常勤講師	(株)ニュー沖縄支店	ホーチミン日本人学校
第一編物(株)	高等学校非常勤講師	(株)サンエージェンシー	(株)DACS	(株)フジタカクリエイション
作家				

【音楽学部】

くるみ幼稚園	アーツポート企画(株)	(株)スカイエムアンドエムズ	中部病院	テラスホテルズ(株)
(株)サンエーインターナショナル	陸上自衛隊	小学校非常勤講師	中学校非常勤講師	ホテル九重
au(株)	沖縄県警察運転免許センター	声楽家	ルネッサンスリゾートオキナワ	

国際交流

下記の大学と芸術・学術王流に関する協定書を締結しています。(7カ国、地域10校)

- 福建師範大学(中国) ○中国音楽学院(中国) ○ミュンヘン国立造形芸術大学(ドイツ) ○ブレーメン国立芸術大学(ドイツ)
- C.モンテヴェルディ音楽学院(イタリア) ○University for the Creative Arts(イギリス) ○チェンマイ大学美術学部(タイ)
- ミラノ・ビコッカ大学(イタリア) ○国立台北芸術大学(台湾)
- インドネシア芸術大学デンパサール校パフォーミングアーツ学部(インドネシア)

留学生名簿 2015 年前期状況 (2015 年 4 月 1 日現在)

■受入

	氏 名	出身国名	受 入 専 攻	担当教員
1	呉 海寧 (ゴ・カイネイ)	中 国	芸術文化研究科後期博士課程 (比較芸術学研究領域)	波照間 永吉
2	陳 佑而 (チン・ヨウジ)	台 湾	芸術文化学研究科 (芸術文化学専攻) 芸術表現領域	波多野 泉
3	趙 英鍵 (チョウ・エイケン) ZHAO YING JIAN	中 国	芸術文化学研究科 (芸術文化学専攻) 芸術表現領域	上條 文穂
4	韓 蘊澤 (ハン・ユンゼ) (Han YunZe)	中 国	造形芸術研究科 (生活造形専攻) 工芸専修	山田 聡
5	蔡 智元 (チェ・ジウオン)	韓 国	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻	渡名喜はるみ
6	朱 ハンセム (ジュ・ハンセム)	韓 国	美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻	赤嶺 雅
7	目取真久野 フリア恵子 (メドルマヒサノ フリアケイコ)	アルゼンチン	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻	渡名喜はるみ
8	ランジ 親川 マベル (ランジ オヤカワ マベル)	ペルー	美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻	渡名喜はるみ
9	LE THI MAI (レ ティ マイ)	ベトナム	美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻	赤嶺 雅
10	龍 悦 (リュウ エツ)	中 国	音楽学部音楽学専攻作曲コース	福富 秀夫
11	小野 英美 (オノ エミ)	米 国	音楽学部琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	比嘉 いずみ

■派遣 (姉妹校)

	氏 名	出身国名	受 入 専 攻	担当教員
1	野田 菜摘	タ イ	チェンマイ大学美術学部	仲本 賢
2	松島 玲奈	ドイツ	ブレーメン国立芸術大学	赤嶺 雅
3	末吉 由佳梨	ドイツ	ブレーメン国立芸術大学	笹原 浩造

留学生紹介



沖縄県立芸術大学
大学院
芸術文化学研究科
後期博士課程 1 年
陳 佑而

台湾から留学しております陳佑而と申します。私は漆素材による彫刻技法を学ぶため、2011年9月より1年間の交換留学生として在籍しました。その後、漆技法と創作テーマについてもっと深く研究したいと思い、修士課程研究生を経て2014年から芸術文化学研究科の博士課程へ進学しました。

沖縄での約2年半の留学生活はとても充実しております。創作面においては、漆技術の練度の高まりとともに、さまざまな素材との取り合わせによる実験ができるようになり、作品制作の可能性が広がりました。そして、ファインアートの芸術創作者は少なく、また伝統漆芸の継承も問題になる台湾の状況と比べると、日本は伝統技術や地方独特の工芸の保存継承を大切にしているように感じます。県立芸術大学でも近年漆分野が開設され、伝統技法の知識を得ることができるようになったことは、現代の美術を志向する私にとっても大変役立ちます。さらに、先生方より倫理、美術史、社会批評などさまざまな角度からのご指導をいただき、動物と人間の関係を主題とする私の創作理念を学術的に論じられるように頑張っています。

2014年10月に沖縄県立芸術大学振興財団の助成により、短期交換留学生として東京藝術大学に行きました。1週間とはいえ日本の歴史、文化、芸術など各方面の一端を体験できたことは、私にとって具体的な研究への一助となったのみならず、東京で活気に満ちた芸術活動を体感し、異文化圏の中に流れている文化力を感じることができ、今後の創作人生の大きな糧となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝しております。

(一社) 沖縄県立芸術大学同窓会ニュース

この春、王家の家紋よろしく、首里城のお膝元に最強の三つ巴体制が誕生しました。教育機関としての大学、大学と社会とのハブとしての同窓会、それらの活動をバックアップする財団の三者です。

昨年お伝えしましたように、2015年3月4日付けで同窓会を法人化し、「一般社団法人沖縄県立芸術大学同窓会」を設立いたしました。

このことは、多方面で活躍する同窓生のネットワークを活かし、アート、デザイン、紅型やヤチムンをはじめとした沖縄伝統工芸制作・マネージメントのほか、オペラ、オーケストラなどの演奏・プロデュースのみならず作曲や琉球芸能公演に至るまでを一手に担うことが可能な、いわば「芸術の総合商社」が誕生したことを意味します。

今後はまず、学内に点在する「困った」を洗い出し、事業化の可能性を探ります。並行して、同窓生の会社やプロジェクトを繋げ、そこから新たな事業を生み出します。また、OJTなどを通じた在学生の人材育成、財団とも連携した地域貢献・芸術振興にも取り組みます。

なお、旧正会員みなさんは、順次「社員」として登録をさせてい

たきます。

「社員」は、卒業・在学の別なく法人の名刺を持ち、ご自身が受託可能な業務メニューに他の社員のスキルを加えることができますので、対外的なチャンスをグッと引き上げられます。同時に同窓会が受発注する事業への参加、人材の紹介などの権利を得ます。

なお、より多くの同窓生にご登録・ご協力いただきたい気持ちから、これまで1万5千円であった終身会費を、1万円に引き下げました。

まだの方はぜひこの機会にご登録ください。法人の詳細や取り組みについては、順次Webサイトにてお伝えいたします。

最後になりましたが、日頃より同窓会へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

真喜志 康一(代表理事:デザイン専攻8期卒)

【webサイトアドレス】 <http://www.geidai.okinawa/>

退任あいさつ



芸術学教授
浅野 春男

29年の長い間、本学の教員として過ごしました。皆様
に篤く御礼申し上げます。私の研究領域は西洋美術史
であり、沖縄とはあまり関係がありませんでしたが、多
くの方々からご支援を賜り、有意義な時を過ごすこ
とができました。本学のさらなる発展を心よりご祈念申
上げます。



染織教授
ルバース 吟子

昭和61年、工芸専攻第一期生の授業は第一キャン
パスでスタートし、翌年に第三キャンパスへ移転、平成23
年に現崎山キャンパスに移転しました。念願であった
漆芸分野も開設され、織・染・陶・漆の四分野が揃った新
たなスタートは、感慨深いものでした。いろいろありま
したが、それぞれが、今日の私の成長の糧になっていま
す。本学でのすべての出会いに感謝いたします。最後
に、本学のさらなる発展を心からお祈りいたします。



全学教授
富原 靖博

芸大に着任して早や21年が過ぎました。その間皆様
方の心温まるご支援により充実した教員生活を送るこ
とができました。又美術展や演奏会などのすばらしい
芸術に触れることもできました。それらは生涯小生の
宝物として脳裏に残ることでしょう。芸大はこれから
多くの難題に直面することが予想されます。教職員の
英知を結集して解決してほしいものです。

最後に芸大のますますの発展を祈念します。21年間
本当にお世話になりました。



絵画助教
宮里 秀和

県立芸大絵画専攻の助教として、毎日が慌ただしく
も充実した三年間でした。先生方をはじめ学生の皆さ
んと共に、表現を語り、表現を行い、表現を共有する。自
分の考えが揺さぶられる時を楽しみながら、それに伴
う自身の変化も肯定的に受け入れることができました。
そのような貴重な場と時間が、今の自分を支える原
動力になったと信じています。ありがとうございます。
これからも沖縄芸大のさらなる発展を心から願っ
ております。



器楽教授
高橋真知子

はや10年の月日が経ちました。
この間、教職員、学生皆さんとの交流から多くを学びま
した。そしてこれが沖縄であったことを大切に受け止
めています。当初は多くの方々からご指導を頂きお世
話になったことも思い出されます。実にあっという間に
退官の日がやってまいりましたが、この場をお借り
して、感謝の気持ちを述べさせていただきたく思いま
す。有難う御座いました。今後の沖縄県立芸術大学の健
やかな発展を望んでやみません。



琉芸教授
島袋 君子

県立芸大でのアツという間の6年間でした。全ての
皆様にありがとう！と伝えたいです。会議では聞き慣
れない専門用語に毎回ハラハラドキドキして、お陰で
メモ書きしたものが、“芸大会議辞書”として発刊できる
ほどです。また、附属図書・芸術資料館長を兼務し、父
(山川文康)の長年の夢であった鎌倉芳太郎氏から頂い
た布を寄贈する場に立ち会えたことが、親孝行となり
ました。県立芸大の今後の発展と、教職員の益々のご精
進に期待いたします。



全学教授
新里 健

平成13年の秋に本学へ赴任して以来、教職課程と学
生相談を担当してきましたが、振り返るとさまざまな
ことが蘇ってきます。大学という未知の世界に踏み出
し、赴任した翌年に文部科学省からの視察があって右
往左往したことは忘れられません。授業と学生相談と
いう二足のわらじを履く身としては、そのはざまで悩
む時期もありましたが、教職員の皆様のおかげで、どう
にか退職まで無事にやり通すことができました。お礼
を申し上げます。



彫刻助教
堀 園実

助教という教育する立場から大学に関わらせてい
ただいたことは私にとりとても貴重な経験となりました。
私自身の今後について、作家活動の他、美術教育に
も関心を持ち将来を具体的に見据えることができるよ
うになったことは、この職を務めさせていただいたか
らこそだと思っております。3年間という期間でした
が、お世話になった先生方、事務の方々、学生に感謝い
たします。ありがとうございました。

人事往来

新部署長

音楽学部長	糸 数 ひとみ
音楽芸術研究科長	糸 数 ひとみ
附属研究所長	久万田 晋
附属図書・芸術資料館長	波多野 泉
学生部長	金 城 厚

評議員

学長	比 嘉 康 春
美術工芸学部長	
兼造形芸術研究科長	北 村 義 典
音楽学部長	
兼音楽芸術研究科長	糸 数 ひとみ
芸術文化学研究科長	柳 悦 州
附属研究所長	久万田 晋
附属図書・芸術資料館長	波多野 泉
学生部長	金 城 厚
事務局長	照喜名 一
美術工芸学部選出	田 中 睦 治
	平 山 英 樹
	上 條 文 穂
音楽学部選出	福 富 秀 夫
	佐久間 龍 也
	小 西 潤 子

採 用

教 授	真栄城 興 茂(工芸)
教 授	森 達 也(全学)
教 授	比 嘉 聰(琉球芸能)
教 授	高 嶺 久 枝(琉球芸能)
教 授	松 田 盛 雄(全学)
准教授	金 恵 信(芸術学)
准教授	倉 橋 健(器楽)
准教授	張 本 文 昭(全学)
准教授	藤 田 喜 久(全学)
講 師	屋比久 理 夏(器楽)
助 教	屋 宜 久美子(絵画)
助 教	竹 内 紋 子(彫刻)
助 教	稲 嶺 哲 也(器楽)
助 手	丹 羽 あ や(デザイン)
助 手	木 村 容二郎(工芸)
定年退職	
教 授	浅 野 春 男(芸術学)
教 授	ルバース 吟子(工芸)
教 授	高 橋 真知子(器楽)
教 授	島 袋 君 子(琉球芸能)
教 授	新 里 健(全学)
教 授	富 原 靖 博(全学)

普通退職

助 教	宮 里 秀 和(絵画)
助 教	堀 園 実(彫刻)
助 手	我如古 真 子(デザイン)
助 手	本 田 伸 明(工芸)

昇 任

教 授	仲 嶺 伸 吾(琉球芸能)
教 授	赤 嶺 雅(デザイン)
准教授	花 城 美弥子(工芸)

客員教授

瀬 底 正 憲(真境名正憲、琉球芸能)
平 野 昭(芸術文化学研究科)
永 島 義 男(器楽)

名誉教授

(平成27年4月1日付)
佐久本 嗣 男
A.P.ジェンキンス

オープンキャンパス案内

芸術大学へ進学を希望する方々を対象に、本学の教育活動と環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催します。各学部、専攻・コースの紹介、演奏体験、施設見学、カリキュラムの説明、在学生との懇談会、個別相談会等さまざまな企画を用意しております。

詳細はホームページ<http://www.okigei.ac.jp/>、ポスター・チラシをご覧ください。

オープンキャンパス

美術工芸学部			音楽学部 平成27年 8月1日(土)	
①平成27年 6月27日(土)	時間	午前12時～午後4時30分	時間	午前9時30分～午後5時30分
	受付	当蔵キャンパス一般教育棟3階・大講義室	受付	午前9時より当蔵キャンパス奏楽堂
②平成28年 3月19日(土)	時間	午後1時30分～午後4時	申込み	7月1日(水)～7月24日(金)＜開催当日も可＞
	受付	各専攻学科室		

(①②とも当日受付／※事前手続きは不用です)

学内ニュース

これまで、「ランチタイムコンサート」「琉球芸能公演」「灯火アート」など協力した取組もありました首里城公園を管理する一般財団法人 沖縄美ら島財団と本学が、平成26年11月7日、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展を目的として、包括的連携協定を締結しました。調印式において、比嘉学長がより規模が大きく、多種多様な取組に向けて抱負を述べるなど、今後の両機関の連携は大いに期待されております。



平成27年度 公開講座案内 (受講料無料 <http://www.ken.okigei.ac.jp> をご覧ください。)

附属研究所移動大学(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

移動大学in小浜島、移動大学in波照間島	平成27年11月～12月予定	小浜島、波照間島で同時開催
----------------------	----------------	---------------

附属研究所文化講座(受講料無料、<http://www.ken.okigei.ac.jp>)

講 座 名	期 間	回 数	定 員
「八重山の歴史と文化」	平成27年10月7日～平成28年1月20日	15	80名
「中国・台湾の音楽芸能概論」	平成27年12月～平成28年1月予定	10	30名
「バリ・ガムラン音楽(実技)」	平成27年9月～11月	2～4	10名

美術工芸学部

高校生のサマースクール2015[前期]

講 座 名	内 容	期 間	定 員
版画	銅版画	8月3日(月)～5日(水)	15名
彫刻	頭像塑造、人体素描	8月3日(月)～5日(水)	5名
デザイン	手書きアニメーション	8月3日(月)～5日(水)	30名
織(工芸)	不思議な織物	8月4日(火)・5日(水)	5名
漆芸(工芸)	金箔とアワビ貝で漆ストラップを作ろう	8月3日(月)	15名

高校生のサマースクール2015[後期]

講 座 名	内 容	期 間	定 員
油画	油彩画	8月6日(木)～8日(土)	15名
日本画	鉛筆素描と静物着彩	8月6日(木)～8日(土)	15名
デザイン	木製ペーパーナイフ	8月6日(木)・7日(金)	10名
染(工芸)	染色実習	8月6日(木)・7日(金)	10名
陶芸(工芸)	タタラで作る器	8月8日(土)	10名

音楽学部

講 座 名	内 容	期 間
受験準備講座(第1回)	ソルフェージュ・実技等	6月28日(日)
受験準備講座(第2回)	ソルフェージュ・実技等	10月18日(日)
冬期音楽基礎講座	ソルフェージュ・実技等	12月13日(日)
アーティスト・イン・レジデンス	ピアノ・室内楽公開レッスン	9月11日(金)～14日(月)

平成27年度 附属図書・芸術資料館 展覧会情報 2015年度前期

日 程		展 覧 会 名	展 示 室		
			第1展示室	第2展示室	第3展示室
4月	2日(木)～7日(火)	ふるさと特産品開発展(デザイン専攻授業成果発表)		○	
	16日(木)～20日(月)	Think you展「～大学院工芸科進級展～」(院工芸科グループ)	○		
	25日(土)～29日(水)	「PEKO展(仮)(デザイン専攻3年グループ)		○	
5月	13日(水)～17日(日)	ドローイングコミュニケーション2015(絵画専攻授業成果発表)	○	○	○
6月	10日(水)～14日(日)	Do not fit(デザイン専攻グループ)		○	
	19日(金)～23日(火)	「和紙と光展(仮)(デザイン専攻グループ)		○	
7月	16日(木)～20日(月)	個展「私の日本(仮)」(デザイン専攻)	○		
		グループ展(仮)(デザイン専攻グループ)		○	
	29日(水)～8月2日(日)	彫刻専攻 学部生・院生展(仮)(彫刻専攻授業成果発表)	○	○	○
8月	20日(木)～24日(月)	「サマースクール成果展」(絵画専攻主催)	○		
		MASK(絵画専攻グループ)		○	
9月	2日(水)～6日(日)	「夢展(仮)」(デザイン専攻グループ)		○	
	11日(金)～15日(火)	LIVE(デザイン専攻グループ)			○

平成27年度 演奏会案内

日 程		演 奏 会	日 程		演 奏 会
4月	16日(木)	学内演奏会(管打楽独奏)	12月	1日(火)	奏楽堂演奏会(大英帝国の誇り)
5月	13日(水)	学内演奏会(声楽独唱)		3日(木)	学内演奏会(ピアノ重奏)
	14日(木)	学内演奏会(管打楽独奏)		9日(木)	学内演奏会(室内楽)
	28日(木)	学内演奏会(ピアノ独奏)		15日(火)	学内演奏会(室内楽)
6月	4日(木)	学内演奏会(管打楽独奏)		17日(木)	学内演奏会(室内楽)
7月	6日(月)	学内演奏会(オーケストラ)		18日(金)	有森博・長瀬賢弘・ピアノデュオリサイタル
	10日(金)	学内演奏会(琉球芸能)	1月	13日(水)	【院】学内演奏会(オペラアンサンブル)
	16日(木)	【院】学内演奏会(声楽独唱)		15日(金)	学内演奏会(琉球芸能)
	25日(土)	学内演奏会(管弦打楽専修)		24日(日)	オーケストラ定期演奏会
8月	1日(土)	【院】学内演奏会(室内楽)		25日(月)	学内演奏会(日本歌曲、重唱)
10月	8日(木)	学内演奏会(オペラアンサンブル)		28日(木)	修士演奏(声楽専修)
	10日(土)	琉球芸能定期公演		30日(土)	修士演奏(舞台芸術専攻)
	12日(月)	洋楽定期公演	2月	2日(火)	修士演奏(ピアノ専修)
	15日(木)	学内演奏会(ピアノ独奏)		6日(土)	作曲作品試演会
	22日(木)	学内演奏会(管打楽合奏)		10日(水)	奏楽堂演奏会(室内楽の夕べ)
	28日(水)	学内演奏会(弦楽独奏)		19日(金)	奏楽堂演奏会(日本作品の夕べ～19世紀)
	29日(木)	学内演奏会(声楽独唱)		20日(土)	室内楽定期演奏会
11月	8日(日)	【院】学内演奏会(コンチェルトⅠ)		22日(月)	卒業論文・修士論文発表会(音楽学)
	11日(水)	学内演奏会(管打楽独奏)	3月	4日(金)	卒業演奏会(琉球芸能専攻)
	13日(金)	学内演奏会(琉球芸能)		5日(土)	卒業演奏会(声楽・器楽専攻)
	14日(土)	奏楽堂演奏会(沖縄現代の音楽展)			
	18日(水)	学内演奏会(合唱)			
	26日(木)	学内演奏会(オペラアンサンブル)			
	28日(土)	【院】学内演奏会(コンチェルトⅡ)			